

長生きする新潟

新潟大学 農学部 1年 阿部藤吉郎

記事の概要

新潟の中小企業の一番の魅力は、長寿であることだと考える。県内各地の長寿企業で古くからの技術が受け継がれており、“新潟ブランド”として完成されている。新潟ブランドは世界を相手にしても通じる力を秘めている。しかし、そのような企業の多くが少子高齢化による人材不足、後継者不足に悩まされている。この状況を打開するためには、①県内の人間を留める施策、②県外の人間を呼び込む施策、この2つが重要である。

1. はじめに

社会が劇的に変化していく現代において、いつの時代も変わらないものの偉大さを感じる。中小企業による地域への貢献がその一つだろう。具体的には雇用、社会活動、経済循環の促進などがある。中小企業がその役割を放棄してしまえば、時代に関係なく、その地域の活気はなくなり持続することはできない。地域に根差した昔ながらの中小企業は、地元住民の生活に多大な恩恵を与えている。ここでは「新潟の長寿中小企業」の魅力と可能性について考察する。

2. 地域に根差してきた中小企業の可能性

新潟の中小企業における一番の魅力は、長寿であることだ。2018年11月時点の調査において新潟県の100年企業の本数は1,349社で全国第3位であるという結果が出ている。企業寿命が長い企業は、①地域の特性を生かしている、②地域を存続、発展させている、③変化に対応できる、という3つの要素を持っていると考える。地域の特徴を生かせなければ事業は空回りし、決して長くは続かない。事業を継続させ、地域に貢献することでその地域を存続、発展させている。地域からの信頼も厚く、そこで働きたいと思われる企業になる。長く続けば時代も流れ、企業を取り巻く環境は変化していく。その時は企業自身も変化を起す必要がある。時代の流れにあった事業を展開することで次の世代に託すことができる。新潟県は南北に長く面積が広いため周囲の県と関係を築くのが難しかった。だからこそ新潟県内で一体となり、それが今まで続いて“新潟ブランド”として完成しているといえるのではないか。

近い将来、世界市場の中心は欧米からアジアに移ると予想されている。新潟は日本海側の主力都市としてさらなる発展が見込まれ、今以上に国内外問わず注目を集めることになる。“新潟ブランド”は武器としてとてつもない可能性を秘めている。新潟の主な長寿業種として、農業、宿泊業、建築業、酒造業、金属加工業が挙げられる。このような業界は国内だけではなく、積極的に海外進出に取り組んでもいい

のではないか。世界の貧困層の人口は確実に減少しており、中国をはじめとするアジアではそれが顕著に表れている。中流層の増加が著しいのである。市場が完全に移り変わってしまう前に、中流層の人を対象にした、“新潟ブランド”を生かせる市場や展開経路を開拓できれば、新潟の可能性がさらに広がる。付加価値がついている“新潟ブランド”は日本を代表する商品になり得る。

3. 現状と可能性を広げるための取り組み

現在、新潟には人材不足、後継者不足で悩みを抱えている中小企業が多い。新潟の可能性を発揮するためには働き手を増やす必要がある。しかしそれは全国ほとんどの自治体で同じような問題となっている。主な原因は少子高齢化にあるとされているが、もっと身近な問題に着目しなければ改善のための行動ができない。海外からの労働力を求めるという意見もあるが、言語と文化の壁がある以上、伝統的な技術や手法をそう簡単に再現はしてはもらえないので、得られる労働力は制限されてしまう。そこで、新潟県内の人間をいかに新潟に留めるか、また、他県の人間をいかに新潟に興味を持たせるかが重要である。ここでは10代を主とした考察を述べる。

県内の人間を留める施策について。調査によると「本県出身の首都圏大学卒業のUターン就職率は31.5%（2017年3月卒：新潟県調べ）、地元大学卒業者の県内就職割合は55.1%（2018年3月卒）」となっている。さらに、「高校時代までに地元企業の認知度が高い場合、Uターン希望率が高くなる」ことが分かっている。このようなことから工業、商業、農業高校だけでなく、いわゆる進学校にも地元企業を知ってもらう機会を設ける必要があるのではないかな。

県外の人間に新潟に興味を持ってもらう施策について。ここでは、新潟大学を対象にして考察する。新潟大学の県外学生割合は約6.5割で、就職率は令和元年度卒業生において文系学部（人文学部、教育学部、法学部、経済学部）で94.5%、理系学部（理学部、工学部、農学部）で43.5%となっている。新潟大学には、出身が新潟県外で、将来の職について考えている人間が数多く存在するということがわかる。こういった人間を新潟県に留めるために、大学内でのキャリア支援はもちろんのこと、学生が、「新潟大学に来た」ではなく、「新潟に来た」と思えるような取り組みが必要なのではないかな。

4. 参考文献

- ・新潟大学 キャリア・就職支援オフィス：新潟大学の進路・令和元年度職業・産業別就職状況 <https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/situation2.html>
- ・新潟大学 学生生活実態調査報告書学 <https://www.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/03/h26jittai.pdf>

・老舗企業の実態調査 2019 年

<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/p190101.pdf>

・データから見る産学連携における地域貢献

https://www.chiiki-kassei.com/img/files/taikai/2019/o_03.pdf

・新潟市の産業 2019 新潟市経済部産業政策課

http://www.city.niigata.lg.jp/business/shoko/sangyo/shi_sangyo/shinosangyo.files/2019all.pdf

・新潟地域における中小企業の産学連携

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsip/4/2/4_2_2_8/_pdf

・2020 年版 中小企業白書・小規模企業白書 概要

https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2020/PDF/2020_pdf_mokujityuuGaiyou.pdf